



令和2年5月

## 「有馬の地名」

神戸特別支援学校の子ども達の声が聞こえるようになってきました。分散登校とはいえ、学校に少しずつ活気が戻ってきました。

さて、神戸市北区の有名どころといえば、日本三古湯といわれる「有馬温泉」をあげることができます。今回は、その有馬の地名にまつわるお話をします。

アリマの「マ」は、土地を意味するといわれています。兵庫県内にも播磨、但馬、須磨などと同じと考えられています。また、アリマは、山間説を唱える専門家もいますが、全国にある有馬地名をみていくと、三重県熊野市有馬町や長崎県南高来郡南有馬町などは、海岸まですぐの所に位置



しています。また、アイヌ語では、「燃える谷」を意味するとの説もあります。確定するものではありませんが、全国に有馬地名があるのは、興味深いですね。

また、有馬地名を名乗ったのが、有馬一族です。摂津国有馬郡の地頭となったのが、室町時代の守護大名赤松氏の赤松規祐の五男有馬義祐です。子孫は足利将軍家にも重用され、その後織田信長と対立する荒木村重との対立によって、有馬国秀は自害に追い込まれ断絶します。

その後、庶流の有馬重則が播磨国美濃郡に進出し、別所氏や淡河氏と対立します。子有馬規頼は、豊臣秀吉の御伽衆となり、その後子孫が遠江国横須賀3万石を治めます。

関ヶ原の戦いで有馬氏は東軍に与し、その戦功から有馬郡三田藩2万石、丹波国福知山藩6万石に封ぜられます。大坂の役でも徳川方として活躍したため、筑後国久留米藩21万石の国持大名となる出世をすることになります。

有馬の地名から全国的な広がりをみれたのは、奥深い感じがします。